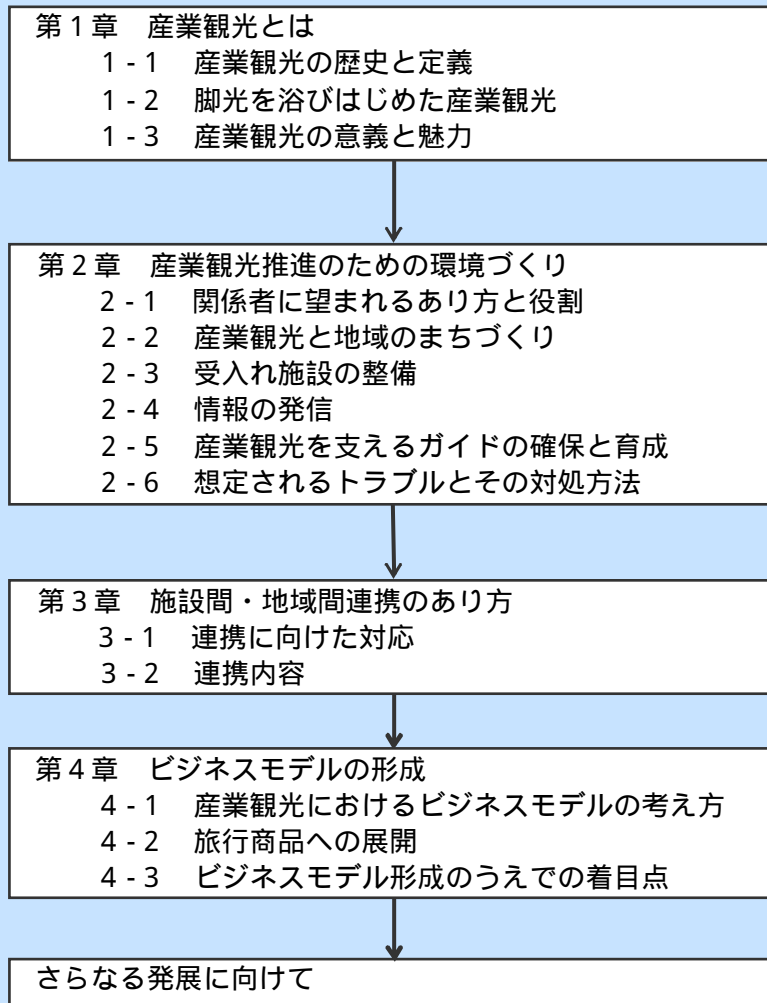


『産業観光ガイドライン』概要版

平成20年4月25日
国土交通省都市・地域整備局大都市圏整備課

1. 『産業観光ガイドライン』の構成について

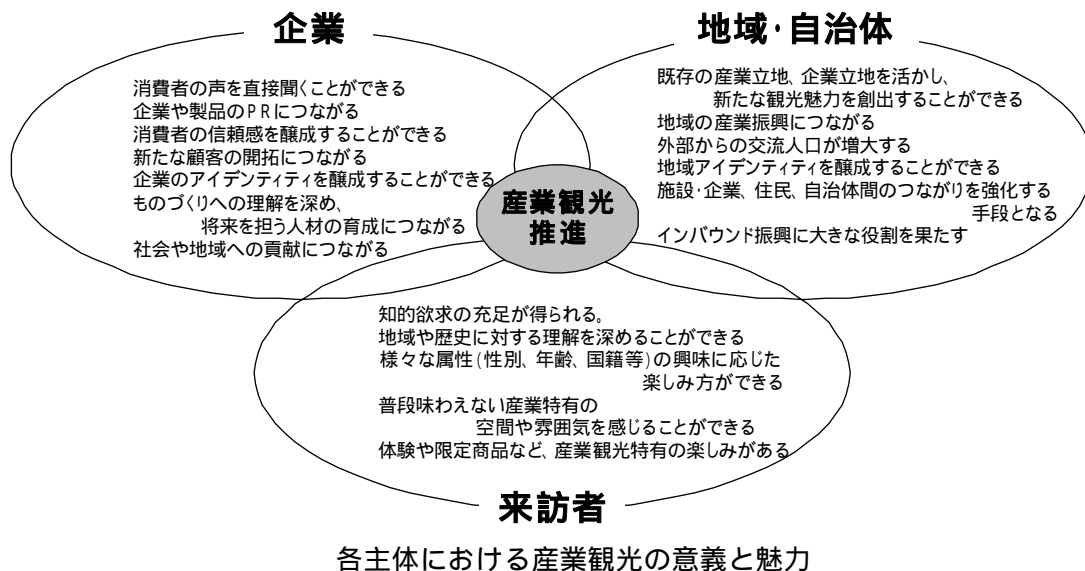
本ガイドラインでは、大別して、産業観光に対する理解を促すうえで必要となる基本的事項をまとめた「産業観光とは」(第1章)、産業観光推進のための基礎的な取り組みをまとめた「産業観光推進のための環境づくり」(第2章)、そして応用編となる「施設間・地域間連携のあり方」(第3章)、「ビジネスモデルの形成」(第4章)により構成されています。



2. 『産業観光ガイドライン』の特徴

特徴1 産業観光の意義と魅力、必要となる対応策について具体的かつ分かりやすくまとめています。

新たに産業観光を検討する方々の参考となるように産業観光を実施する意義と魅力についてまとめるとともに、産業観光を推進していくにあたっての必要な考え方、整備、対応等について、具体的に分かりやすく示しています。



(第2章から抜粋)

産業の見せ方と楽しませ方の工夫

基本的な考え方

来訪者のニーズをふまえながら、産業や技術などを楽しく「知り」、「学び」、「体験する」ことができるような工夫が産業観光の魅力を高めることにつながります。また、産業観光として継続的に推進していくため、体験プログラムも含め展示内容等の創意工夫が必要です。

特に、産業観光で取り上げる対象は、日常生活とどこかでつながっているが日頃目にしないものが多いため、「普段、見られない現場を知る」という希少性を活かした見せ方が有効です。日常生活の中で目にしているものが対象の場合は、原料が製品になるまでの工程、製品や製造技術の歴史、製造に関するエピソードなどを取り入れ、来訪者を楽しませる見せ方を考えましょう。

留意事項

・現場で働いている人や行っている作業を見せる

職員や技術者が機械操作や重機などで作業を行っている風景は、それ自体が産業観光の1つの見せ場であり、来訪者に共感や感動を与える重要な要素となるため、施設の状況や産業の種類に応じ、安全に見せることが求められます。声が届かない場所から作業風景を見せることや、作業を行っている部屋の窓越しに見せるなど、産業を支えている人の姿の見せ方は多様です。

具体例に見る創意工夫のポイント



作業空間と作業風景を公開している例

火力発電所のタービンのある建物内部の見学では、実際にタービンの点検作業を行っている人や作業風景を見ることができます。普段はあまり知られていない都市機能を支える仕事のありのままの姿を間近でみることも産業観光らしさといえます。

【写真 川越町・川越火力発電所】

特徴2 産業観光に対する生の声を拾っています。

ヒアリング調査、モニターツアー調査などを行い、その成果を踏まえて基本的な考え方、留意事項をまとめ、更にアンケート結果、具体例に見るポイントも紹介し、産業観光に対する生の声が活かされるよう工夫しています。

(第2章から抜粋)

モニターツアーのアンケート結果

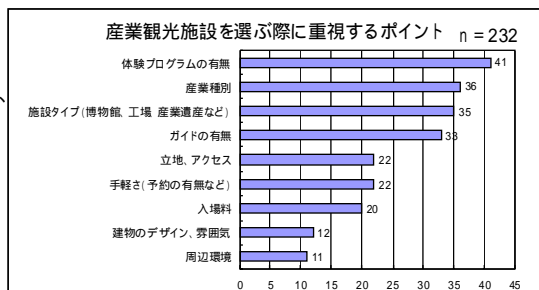
体験は、「施設を選ぶ際に重視するポイント」「施設に求めるプラスアルファの要素」「お金を払ってもいいと思える要素」で1位に選ばれており、非常に重要な要素であるといえます。

体験に関する意見

- ・博物館や工場施設、そこでしか出来ない体験はその地域や産業を強く印象づける一つの要因になると思います。
- ・体験があることで、遊びながら無理なく学ぶことができる。
- ・体感することにより、もっと身近に感じられる。
- ・体験できるコーナーがもう少しほしい。
- ・気分転換にもなるし、めりはりがあって楽しい。
- ・少しで良いので自分で体験してみたい。
- ・自分が努力した結果が楽しみ。欲をいえばその場で手に入り、土産として持ち帰れると一層、印象や思い出として残ると思います。

施設選びの際に重視するポイント

・産業観光受入れ施設を選ぶ際に重視するポイントとしては、「体験プログラムの有無」、「産業種別」、「施設タイプ」、「ガイドの有無」が多く挙げられています。興味のある産業を扱う施設を重要視することは当然であるといえますが、「体験プログラムの有無」と「ガイドの有無」については、より産業を分かりやすく、身近に感じるために重要な要素であるといえます。



具体例に見る創意工夫のポイント



【写真 名古屋市・ノリタケの森クラフトセンター】

陶磁器メーカーの施設で体験できる絵付けの例

体験のための作業空間は、余裕を持って配置し、安全に作業が行える広さを確保する必要があります。安全性や十分な空間を確保した上で、施設の持っている雰囲気や産業の歴史をものがたる体験空間の整備を心がけましょう。この施設では、子供から大人まで絵付け体験を楽しむ人でにぎわっています。



【写真 名古屋市・有松・鳴海絞会館】

伝統技術の実演と体験を行っている施設の例

名古屋市の有松地域では、江戸時代頃から絞りの技術による着物や帯などの繊維製品が生産されています。この伝統的な技術は100種類にもおよび、今日までそれぞれの家庭の女性を中心に受け継がれています。現在は、伝統工芸士による実演と絞り体験の教室が開催されています。

特徴3 産業観光の継続的な推進に必要な施設間・地域間の連携やビジネスモデルの考え方について言及しています。

産業観光の持続的発展を可能とするために必要不可欠な施設間・地域間の連携方策や産業観光の自立を促すためのビジネスモデルの考え方について言及しています。

(第4章から抜粋)

産業観光におけるビジネスモデルの考え方

基本的な考え方

施設や地域が継続的に産業観光を行うためには、ビジネスモデルのあり方が問われてくることとなります。その際、“産業観光らしさ”を反映したビジネスモデルの検討が求められます。

なお、モデルの構築においては、施設や地域等の特徴や価値、企業の方針などを加味したうえで、料金設定の考え方を明確にしておく必要があります。

留意事項

・ビジネスモデルの重要性

施設のタイプや企業のスタンスにより、収益性や来訪者への対応（料金設定など）が異なります。現状では「無料」で受け入れている施設であっても、人件費や資料費、整備費等は今後も確実にかかってくるため、将来、本業を圧迫する状況になることも考えられます。そのような状況になると、多くの場合、費用を来訪者に負担してもらうか、あるいは来訪者受入れをやめるかの選択に迫られるものと想定されますが、地域の活力維持、活性化のためにも継続的に受入れることが望まれます。そのため、たとえ部分的であっても費用を来訪者に負担してもらうことも含めビジネスモデルを検討し、産業観光を展開していくことが求められます。

なお、施設だけでなく、地域一体でのビジネスモデル形成も考えられるため、推進者や地域関係者、旅行業者等にも関わってきます。特に、産業観光は「着地型旅行商品」に適するものであるため、地域全体で検討することが重要です。

・産業観光らしいビジネスモデルの構築

産業観光は我々の生活・文化に関する「産業」を観る点で、他の観光タイプとやや異なります。「産業体験」、「地域の食材を活用した食事」、「産業にまつわる製品・土産物」、「地域らしさを感じるガイド」等の「もう一度つくる楽しさを味わいたい」、「自分の作品が完成する」、「自分だけのものを持った」等産業観光ならではの要素を取り入れた観光内容とビジネスモデルが形成されると非常に効果的です。さらに、旅行商品化を目指す場合、他の観光施設（産業観光以外も含む）や旅行会社・バス会社等との連携を前提としたビジネスモデルの検討も可能となるでしょう。

具体例に見る創意工夫のポイント



【写真 ノリタケの森（名古屋市）】

独立採算を目指す例

ノリタケの森では、独立採算を目指し、クラフトセンターの有料化やレストランの併設、物品販売等に取り組んでいます。